

## 2020年度 国際機構・環境学研究科国際室運営活動報告

国際教育交流センター教育交流部門

CHUN Sohyun (ジョン ソヒョン)

### 1. はじめに

2020年度はCovid19が長期化している状況を踏まえ、多様な活動や対応に変化が求められることとなった。そうした環境下における全学及び環境学研究科での活動について報告を行う。特に、環境学研究科は2019年国際室を設置して以降、より効率的で適切な留学生支援やNetwork強化、海外大学との交流強化を目的として活動に取り組み、コロナ禍に対応し、オンラインでの交流・情報共有が出来るよう備えている。

### 2. 国際機構教育交流部門での留学生支援：コロナ禍のため全てオンラインで実施

#### 2-1) 全学新入留学生オリエンテーション / 引越オリエンテーション (英語)

対面からオンラインへの変更：日本にいる留学生と渡日できていない留学生の状況を考慮しオンラインで実施し、各国で異なるコロナの状況も共有しながら、学生の質問に対応した。オンラインの実施での問題は、対面より学生の集中力や興味が短時間で切れてしまうことである。従って大量の情報を一方的に提供することは効率的では無いため、動画で情報提供した後、相談形式(Q & A)で全学オリエンテーションを行った。しかし、事前に配布した資料や確認すべき動画内容を見ないまま参加して質問する学生が多くみられたため、受け身に慣れている学生に、主体的に参加するよう働きかけることが今後の課題である。

#### 2-2) 「オンラインカフェ」：5月～7月毎週金曜日実施

コロナ禍で大学での多様な活動が制限され、留学生の交流機会・悩み相談の場が不足している状況を踏まえ、毎週金曜日のランチ時間を活用して開催した。毎週異なるテーマのもと、留学生担当教員が交代で参加し、学生間の交流をサポートした。学生からは面白い交流が出来たとの意見があった。しかしながら、毎週

変わるテーマへ興味を持つ学生もいる反面、継続性が無く、深い交流が出来ないこと、日本人の学生の参加率が低いことなどが課題として残り、今後の交流会ではオンラインでより深い交流が提供できるよう検討していく。

#### 2-3) 大学の世界展開力強化事業：

ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラムは5年間(2016-2020)のプログラムで、NU-ラオス国立大学(NUOL)交換学生を受入・派遣業務は、コロナ禍で実施不可となった。大学の世界展開力強化事業は2020年で終了するが、本プログラムで培ったノウハウとネットワークを活かし、NUOL大学の受け入れ教員と引き続き学生交換・交流会の企画を予定している。

### 3. 環境学研究科の国際室運営

#### 3-1) コロナ期間中の交流会・渡日準備相談会 (Hybrid 交流会) (5回)：3月・9月・10月・12月1月、主にオンラインで実施

2020年度はコロナ禍という状況の中、オンラインでの相談会では、コロナ禍における学内での活動の変化、水際対策の説明(入国・空港からの移動)、隔離期間準備等の従来になかった多岐にわたる対応についての学生からの相談が急増した。これまでは留学生間での多様な文化を理解し乗り越えることを目的に交流機会を提供してきたが、留学生の中で、渡日できた学生と渡日できていない学生の壁が発生した。その相談経験から、教員からの相談だけではなく、学生同士での情報交換・サポートをしながら交流もできるように、相談・交流会の形で企画し、ピア・サポートができたことが有意義であったとの意見も多く寄せられた。一方、コロナ禍でオンライン環境に慣れてきた反面、オンライン疲れや、「オンライン上では打ち解けられない」「深い人間関係が築けない」等のオンライン交流に

おける問題点や、交流会への日本人学生の参加率の低さなどの課題が残った。現在はコロナ関連の情報交換だけではなく、オンラインでも楽しむことができるような交流も重要であると考え、毎月1回定期的に交流する Language & Cultural Shower などのイベント案を留学生と準備中である。

### 3-2) 国際室ホームページ更新 (2019/12-2021/03) :

コロナ禍により新入留学生の渡日時期が異なるため、ホームページに名古屋大学や日本での生活に関する各種情報を提供し、渡日した学生がいつでも見ることができるようにした。

### 3-3) 留学生相談室運営

#### ーコロナ関連の新入留学生への対応・相談 (150件以上) :

渡日スケジュール相談(70件以上)、渡日前の日本での生活不安などの相談 (7月-12月40件で急増)、関西空港からの新入留学生バスの引率、成田空港でのバス手配 (1月7日)、帰国の混乱による相談の急増 (20件)、PCR 検査のための病院相談 (10件)、コロナ禍での不安や経済困窮等の相談の急増 (15件) 等への対応を行なった。

#### ー環境学研究科での留学生への支援・相談対応 (100件以上相談件数) :

精神的なストレス (14件)、奨学金相談 (12件)、オンラインコミュニケーションの混乱(10件)、ひきこもり学生相談 (3件で10回以上・全学アドバイジング部

門と連携し進行中)、研究室での孤立感 (8件)、病院診察の付き添い (5件)、指導教員とのコミュニケーション問題 (6件)、修士・博士論文執筆の難航 (10件)、卒業後の就職・博士後期課程への進学相談30件以上) 等の対応を行なった。

### 3-4) 環境学研究科と海外大学との研究交流会準備 :

海外に行くことが困難なため、オンラインで「環境」をテーマに、海外大学との共通問題を考える学生中心の研究交流会を企画した。教員だけではなく、学生が主体的に発表を行うことで学生の積極的な関与を今後にも促していきたい。

### 3-5) 海外大学向けの環境学広報資料準備 :

海外からの大学院への進学相談 (特に東南アジア) の増加に対応して、受験生に向けて研究科の紹介資料などを準備中である。

## 4. 教育活動 :NUGELP 必修科目「環境とコミュニケーション」(English Communication in Environmental Issues) 2020春学期にて、学生のグループ討論指導

環境学 NUGELP プログラムの必修科目である「環境とコミュニケーション」を井料先生と共に担当し、日本や世界での環境問題を通して日本人学生と留学生がより効果的な意見交換・共同研究・討論を経験できる機会が提供できるよう指導を行っている。